

ミントリーフ西小山園Ⅰ・Ⅱには、ネイティブの職員が在籍しています。普段から英語や異文化に興味を示す子どもたちの姿があることから、表現をテーマとして、探究活動を行いました。

活動スケジュール

4～6月 サークルタイムやダンスで英語でのやり取りを深める。

7～12月 世界のお祭りを知り、体験する。

1～3月 お店やさんの発展、言葉や音を通した表現あそび。

世界のお祭りを体験しよう

世界のお祭りの映像をきっかけに、子どもたちから「やってみたい」の声が。お神輿を作ったり、お店屋さんをする延長で、保護者の方も巻き込んだ

Nishikoyama Festivalを開催しました。日頃からの保育者とのやりとりで使う“Which color do you like?” “Red!”, “Do you want to try?” “Yes!”など英語でのやりとりを楽しみながら、フードコーナーではトッピングを選んだり、自分で盛り付けたりする子どもたちでした。



イベント後には保育者に代わって子どもたちがお店屋さん役となり、年下の子をお客さんに迎えるなど、遊びが広がりました。“この子にはどう声をかけてあげたらいいかな?”、“どうしたら伝わるかな?”という表情で使う言葉、表現の仕方を工夫する姿もあり、相手を思いやる気持ちが自然と育っているのを感じ、嬉しくなりました。

オリジナルパロルづくり

フィリピンのクリスマス飾り「パロル」に興味を持ち、いざ商店街のお店へ材料を買いに行きました。「これにする」「こっちがいい」など映像でみた色や形を思いながら選ぶ姿がありました。



子どもたちは自分で選んだ色や素材を使って、何度も試しながら形にしていって姿が印象的でした。完成後には点灯式を行い、光る様子に拍手したり「光ったー!」と歓声が。これをこうしたい、こういう仕組みになっているんだと自分のイメージを深める力が育っているのを感じました。

活動を通して

日々の活動の中でも、保育者が投げかける英語の言葉を日本語や英語で返したり、リトミックなどの音を通じて自分なりに体を使った表現を深めてきました。



自分の正義感から「ダメ!」と強く言い過ぎて友達とぶつかることが多かった子が、徐々に「こうしたらいいんじゃない?」「これはどうかな?」と相手が受け取りやすい言葉に変わった瞬間がありました。サークルタイムでの“どうしたら自分も友達もやさしい気持ちになれるかな”といった問いかけから繋がった関わりでした。表現というテーマを通して、英語や異文化に限らず、友達や社会との関係性、自分なりの表現の仕方を深める活動になったと感じています。